

本の島だより

馬宮西小学校図書館

令和5年4月28日

第1号 児童数

ご入学・ご進級おめでとうございます。

四月から、馬宮西小学校の図書館でみなさんとお勉強することになりました、図書館司書の佐藤希です。図書館でお会いできるのを、楽しみに待っています。どうぞよろしくお願ひします。



ぼくは、図書館のキャラクターの『読じょう』です。ぼくのたんじょう日は、7月4日です。今年で4さいになるよ。よろしくね！「本の島だより」は、おうちの人といっしょによんでね。

かだ貸し出しのきまり

《貸出冊数》 2冊（授業で必要な場合には、追加での貸出もできます。相談してください。）

《貸出期間》 1週間（火曜日に借りたら、次の火曜日が返す日）

☆本は、図書用の袋に入れて、持ち運びましょう。



◆本の予約ができます◆

読みたい本が貸出中のときは、本の予約ができます。黄色の用紙に記入して、青いポストに入れてください。予約は、一人2冊まで、1週間できます。1週間を過ぎると、予約を取り消し、本棚に戻しますので、注意してください。

◆本のリクエストができます◆

こんな本を読みたいというリクエストがありましたら、ピンクの用紙に記入して、青いポストへ入れてください。



4月23日は 子どもの読書の日

4/23～5/12は「こどもの読書週間」です！

スペインのカタルーニャ地方では、サン・ジョルディの日（＝4月23日）に、男の人から女の人に赤いバラの花を、女の人から男の人に本を贈るという習慣がありました。それをもとに、ユネスコは1995年4月23日を「世界本の日」としました。

日本では2001年12月に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」によって4月23日が「子どもの読書の日」と定められました。

「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）子どもたちにもっと本をとの願ひから、はじまりました。小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。「こどもの読書週間」のあいだ、図書館や本屋さん、学校などでは、読み聞かせや人形劇などの楽しい行事がいっぱい行われます。「こどもの読書週間」は、大人が本を子どもに手わたす週間でもあるのです。



4/23～5/12の「こどもの読書週間」に馬宮西小学校では、以下の取り組みを行います。

<みんなでえらぶ！としょかんの本>

みんなが図書館に入れてほしいと思う本を「候補本」の中から1冊選んで投票しよう！一番人気だった本が図書館に入ります。投票は4階図書館まで！

投票期間：4月25日（火）～5月2日（火）

集計期間：5月9日（火）～5月11日（木）

結果発表：5月12日（金）

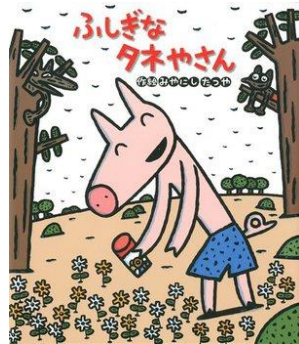
詳しくは うらへ



<みんなでえらぶ! としょかんの本>

みんなが読んでみたいと思う本を選んで、投票箱に投票してね。

「候補本」は図書館オリエンテーションでも紹介しました。期間中は3階と4階の間の掲示板に掲示しますので、見に来てください。投票用紙はクラスごとに配付します♪



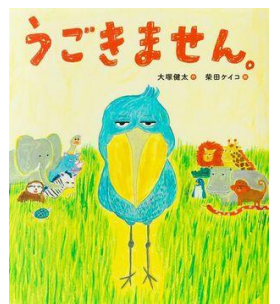
① 『ふしぎなタネ屋さん』
みやにしたつや作/絵 (金の星社)

ブタくんは森の中でふしぎなお店を見つけました。タネをうめるとふしぎなことが起こるといふタネ屋さんです。もらったタネをうめてみると、よきによきによきと木が生えてきて……。わくわくたのしいおはなし。



② 『大ピンチずかん』
すずきのりたけ作/絵 (小学館)

ガムを飲んだ! トイレの紙がない!? こどもが出あうさまざまな「大ピンチ」を、ピンチの大きさと、5つのなりやすさでわけ、ちいさいものから順に紹介! ユーモアたっぷりのえほん。



③ 『うごきません。』
おおつかけんた作/絵 しばたけいこ/絵 (パイインターナショナル)

動かない鳥のハシビロコウ。友だちのカバがやってきても、ゾウの鼻がバナナになっていても、シマウマのもようがうずまきになっていても…ハシビロコウは動かない?! いったい、どんな時に動くのかな?



④ 『ゆめぎんこう』
コンドウアキ作/絵 (白泉社)

いらっしゃいませ、ゆめぎんこうです。おきゃくさまは、どんなゆめをごきぼうですか。夢のアメを売るふしぎなお店を営む、こわがりの店主ペンペンと夢を食べるもぐもぐの、心があたたかくなるおはなし。



① 『科学探偵vs.学校の七不思議』
さとうみどり他/作 (朝日新聞出版)

エリート探偵を育成するホームズ学園から、花森小学校に転校してきた天才少年・謎野真実。クラスメートの宮下健太とともに、科学の知識で学校の七不思議に挑む!



② 『鬼遊び』
ひろしまれいこ/作 (小峰書店)

知らない子どもがそばにいる。知っている子どもが消えている。鬼の遊びはほんとにこわい。負ければみんな鬼のもの…。鬼をよびよせてしまった子どもたちに訪れる「静かな恐怖」を描く連作短編集。



③ 『おばけやさん』
おかべりか/作 (偕成社)

おばけやさんのあるじは小学生の男の子、たもつ。みんなのちょっとした頼みから大きな仕事まで、「おばけや」のおばけが引き受けます。4コママンガ入りの楽しいお話。



④ 『本屋さんのルビネこ』
のなかひらぎ/作 (理論社)

ある日、本屋のかたすみで、本に積もったほこりから小さなねこが生まれました。はじめてのミルク、はじめての友だち、はじめてのぼうけん…たくさんの「はじめて」に出会う、生きる喜びのつまった1冊。

おねがい

春休みに借りた本をまだ持っている人は、大急ぎで図書館まで返しに来てください。よろしくおねがいします。

